

人生経営の社長に就任する
君たちに贈るメッセージ

～志・お役立ち・夢～

鳥取県版



あきらめないことの大切さを

教えていただいた琴櫻関の生き方



琴櫻(ことざくら)さん、本名鎌谷紀雄(かまたにのりお)さんは、昭和15年(1940年)倉吉市に生まれたんだ。大鵬(たいほう)21歳、白鵬(はくほう)22歳など、二十代で横綱(よこづな)になるのが大多数の中、32歳という年で横綱になったんだ。横綱

の下は、大関(おおぜき)、関脇(せきわけ)、小結(こむすび)。

琴櫻さんは、順調に小結まで上がったのに、土俵上で足首を複雑骨折し、ずっと下の十両という位まで落ちて、苦しんだんだ。そして、必死に努力を重ね、大関まで上がったものの、ここでもけがに苦しみ、5年間も大関のままだったんだ。普通ならここであきらめてしまうものなのに、なぜ

音楽を通して「ふるさと」に

恩返しをされた岡野貞一さん



作詞家・高野辰之（たかのたつゆき）さんとのコンビで、「ふるさと」「春が来た」「春の小川」「紅葉（もみじ）」などの名曲を世に送り出したのが作曲家・岡野貞一（おかのていいち）さんなんだ。

岡野さんは、明治11年（1878年）に現在の鳥取市古市に生まれたんだ。お父さんを小さいときに亡くし、家は貧乏だったけど、岡野さんは勉強も遊びもお手伝いも全力でしていたんだ。

そして、お姉さんが通っていた教会で出会ったオルガンの音色に感動し、「大きくなったらオルガンを上手にひきたい。」、次いで「東京音楽学校に入って、オルガンや歌が上手になりたい。」と夢をえがくんだ。そして岡山や東京にまで出かけて勉強し、名門の東京音楽学校に合格したんだ。



地域の希望を
「鉄道」という
形にした
後藤快五郎さん

JR境線で米子駅から3駅目は「後藤駅」。明治35年（1902年）、山陰初の鉄道が開通した時に誕生したこの駅の名前は、鉄道づくりに力をつくした後藤快五郎（ごとうかいごろう）さんからとったものなんだ。個人の名前がつけられた駅は全国的にもめずらしいんだよ。

当時、鉄道建設は、地域発展の大きな原動力になるものだったんだ。でも、「米子駅」の建設は難航したんだ。そのときに立ち上がり、駅用の土地を格安で提供し、それを無しように整備し、路線の土地も多く提供したのが、快五郎さんだったんだ。そして、鉄道車両の修理工場のためにも、広大な土地を無しように提供し、山陰ゆいーの鉄道車両修理工場「後藤工場」（現在のJR西日本後藤

総合車両所)」が誕生したんだ。その間、地域活性化のために「山陰鉄道開通記念第一回全国特産品博らん会」を開さいしたんだ。博らん会は明治45年(1912年)に30日間の日程で行われ、当時人口2万人の米子市に対し、入場者は40万人という人気で、大成功に終わったんだ。

地域の希望を形にした快五郎さんへの感謝が、「後藤駅」だけでなく「上後藤」「後藤グランド」「後藤工場」「後藤川」「後藤ヶ丘中学校」などの名前として残っているんだ。

「夢・目標」とは自分の中からうかんだ自分がしたいもの、「志・使命感」は時代や社会の希望に応じてやるべきものだね。

快五郎さんは、「こういうことが実現したらうれしい、こういう問題が解決できたらうれしい」という地域の希望に耳をすませ、じっくり聞いていくことの大切さを私たちに教えてくれているんだ。

